

事業計画抜粋

社会福祉法人双葉会事業計画

I 基本方針

今年度は介護報酬改定の年度であり、介護報酬全体で 0.54%プラス改定であることが決定されている。中でも、基本報酬のプラス改定（1.8%）が行われたことは赤字が続いている当法人にとっては朗報であり、これを機に寿楽荘、琴清苑の財政面の強化を図って行きたい。

また、昨年施行の改正社会福祉法の柱である、1.経営組織のガバナンスの強化、2.事業運営の透明性の向上、3.財務規律の強化、4.地域における公益的な取組、については確実に実施する責務があり現在の社会福祉法人に求められている形を具現化すべく、全役・職員が一丸となって推進して行きます。

さらには、琴清苑全面改築事業の具体的計画案の策定・申請、深刻的な介護職員の人材難、待機者の激減等々と課題は山積していますが、より良い福祉サービスの提供、町内居住者の雇用の確保、新卒者を含めた若年層の専門職育成に努めていきます。

双葉会診療所事業計画

I 基本方針

双葉会診療所を取り巻く運営環境は年々、厳しさを増しております。

平成 30 年度は、2 年ごとに行われる診療報酬改定の年に当たります。今回は若干のプラス改定になりましたが大きな増収は見込めません。

労働力の確保につきましても、奥多摩町における労働人口の減少も相まって非常に難しい現状ですが、診療所に於きましては、法人理念を念頭に、患者様ならびにそのご家族が安心して満足していただける医療、環境整備につとめてまいり所存です。

寿楽荘事業計画

I 基本方針

介護報酬改定には昨年度中に行われた介護職員処遇改善費用も含まれており、決してめざましい収入増ではありません。逆に褥瘡予防対策や身体拘束廃止対策はさらなるレベル向上を求められています。施設は収入確保とサービスレベルの維持、いわば職員処遇と利用者処遇の狭間で厳しい運営を行なうこととなります。さらには働き手の確保、入所希望者の確保、そして EPA 介護福祉士候補生の受け入れという新しい取り組みや、老朽化が進む介護用品・調理器具といった高額物品の計画的な整備など課題は山積しております。

このような状況ですが、寿楽荘は各職員が最大限の力を発揮し連携をとることで、50 年間受け継がれてきた愛情、人の和、信頼関係の中での慈悲（慈＝他に樂を与える、悲＝他の苦を除く）を理想に利用者自体が主体となって生活をエンジョイできる施設を目指していきます。

また、寿楽荘も改築より 17 年となります。法人内琴清苑の改築と並行し、寿楽荘の改築にむけた長期計画として 10 年後・20 年後の寿楽荘を見据え、高齢人口の動態や就労人口の減少も視野に、若年層の雇用促進・育成と再雇用制度の更なる充実、赤字を出さない経営を目標に財政基盤の強化を図ります。

入所者に関しては平均要介護度が 4.1 を超え、今までにない課題も発生することが予想されます。限られた人員でのサービス提供となるので、効率性も考慮した日常業務の遂行により安心・安全なサービス提供を目指します。

琴清苑 事業計画

I 経営方針

平成 30 年度は介護報酬が 0.54%増収される改定となりました。厳しい運営の続く中での明るい内容であります。しかしながら切迫している財政の問題を根本的に解決するには至りません。現在の入所定員で安定した運営を行なっていくには限界を感じざるを得ません。法人の中長期計画で進めている琴清苑全面増改築の計画の中に、数々の解決すべき問題を取り込み、今年度中に東京都との事前協議が円滑に進んでいく様に最大限の努力を行なってまいります。また、前年度から引き続いております人材確保は、増改築による定員の増加に伴う職員数の採用を踏まえ、緊急に対処して行かなければならない課題となっております。従来の方法による求人では限界が来ており、発想の転換が必要と考えます。専門学校への積極的なアプローチ、EPAの導入など数々の方法で改善を図っていく所存です。

厳しい運営と人材難が続く中でも職員の資質向上も社会的に避けられない状況です。ストレスチェックやキャリアアップの為に面談、施設内研修の充実など、各種方法により職員の資質が向上している様に組織的に対応してまいります。そして、西多摩全体の課題である入所希望者減少の対策の一つとなる西多摩特養ガイドを活用してまいります。

氷川保育園 事業計画

I 運営方針

今年度の重点計画として、地域の中で子育て支援の役割と機能を十分果たしていきたいと思っております。そのためには、保育士の資質向上を図り地域における保育力向上の取り組みや、ホームページや子育て通信による情報の発信を積極的に行い、誰もが利用しやすく笑顔で溢れた保育園を目指していきたい。

安全対策では、乳幼児が長時間生活する保育園では、災害の他にも不審者の侵入、感染症の拡大等、様々な場面での安全管理が必要となります。特に、低年齢児が全体の 40%を占めるので、保育中の事故や怪我については、万全を期す必要がありますので、ヒヤリハットを有効に活用し園全体で取り組み、保育リスクマネジメントに努めてまいります。運営面では、定員割れの現状を踏まえて、効率的な職員配置及びクラス体制や無駄を省いた運営を心掛けています。また、ここ数年の傾向として低年齢児の途中入園者があるため、保育士の確保が課題となっておりますので、関係機関や民間の人材センターを活用し対応を図ってまいります。